プレスリリース

報道関係者各位

平成 26 年 8 月 11 日
公益社団法人日本地すべり学会
第 53 回研究発表会及び現地見学会実行委員会

つくば市で土砂災害に関する研究発表会を開催します。

日本地すべり学会は、全国各地で毎年のように起こる地すべり、山崩れ、崖崩れ、土石流、岩石崩落、落石など，土砂災害を引き起こす自然現象を取り扱う学会です。学会員は、大学、研究所、官公庁、コンサルタント企業などの研究者・技術者で構成されています。全国に 7 つの支部を持ち、自主的な研究、シンポジウム・講演会・講習会などの普及啓蒙活動、学会誌・図書の編集出版、海外協力、災害調査団の派遣などさまざまな活動をしております。毎年、夏には、各支部の持ち回りで研究発表会及び現地検討会を開催しており、本年度は、関東支部の担当で茨城県つくば市で開催されることになりました。

１．親子向けの防災教育イベント（8 月 19 日）

親子で防災の知識を学んでいただくために、防災科学技術研究所と共催で、「親子で学ぼう　真夏の防災教室」を開催します。Dr. ナダレンジャーや模型の達人が防災に関する知識をわかりやすく説明します。事前予約制でしたが、10 日間で 300 人を超えたために募集を締め切りました。

２．土砂災害の研究交流(8 月 20-21 日)

全国の研究者・技術者 400 名近くが「つくば国際会議場」に一堂に会して、研究成果の発表や論議をおこない、調査研究の充実や技術研鑽を図ります。本年度は、２日間で 100 件を超える発表が予定されています。

３．豪雨により発生する表層崩壊の再現実験(8 月 22 日)

世界最大級といわれる大型降雨実験施設により、災害時の豪雨を再現して、斜面が崩壊する様子を観測します（防災科学技術研究所との共同研究)。学会関東支部が組織した斜面モニタリング研究会のメンバーや現地見学会の参加者（30 名）が実権を見守ります。

○学会 Web
http://japan.landslide-soc.org/
●大会の基本情報
http://japan.landslide-soc.org/2014tsukuba/H26tsukuba_top.htm
●大会の詳細情報
http://118.238.26.42/tsukuba/index.html

このリリースに関する問い合わせ
公益社団法人日本地すべり学会
学会事務局　担当：鈴木
〒105-0004 東京都港区新橋５丁目 26 番８号
TEL：03-3432-1878　FAX：03-5408-5250
E-mail：office@landslide-soc.org
●当日の取材は、会長・副会長・実行委員長が対応します。

平成 26 年度公益社団法人日本地すべり学会
第 53 回研究発表会及び現地見学会

１．日程

平成 26 年 8 月 19 日(火)～8 月 22 日(金)

8 月 19 日(火)　「親子で学ぼう　真夏の防災教室」

13 ： 00～16 ： 30（受付開始 12:30）　防災科学技術研究所

共催：独立行政法人 防災科学技術研究所

後援：つくば市教育委員会

8 月 20 日(水)　開会式・研究発表会・意見交換会

受付	8 ： 30～17 ： 00
開会式・表彰式・特別講演	9 ： 30～12 ： 00
研究発表会	13 ： 00～17 ： 00
（口頭発表、ポスター発表、新技術紹介）	
意見交換会	18 ： 00～20 ： 00

8 月 21 日(木)　研究発表会・閉会式

受付	9 ： 00～16 ： 40
研究発表会	9 ： 30～16 ： 40
（口頭発表、ポスター発表、新技術紹介）	
閉会式	16 ： 40～17 ： 00

8 月 22 日(金)　現地見学会

つくば駅 8:50 集合　9:00 出発　17:00 解散

A コース：斜面崩壊実験（防災科学技術研究所）見学

B コース：茨城県北ジオパークと震災復興

C コース：筑波山の成り立ちと土砂災害

２．メイン会場（開会式・表彰式・特別講演、研究発表会、意見交換会）

つくば国際会議場（茨城県つくば市）

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2 丁目 20 番 3 号

TEL: 029-861-0001　FAX: 029-861-1209

URL http://www.epochal.or.jp

＊つくばエクスプレスつくば駅（秋葉原駅から 45 分）から徒歩 10 分

＊つくば国際会議場周辺に有料駐車場があります。

主　催

公益社団法人日本地すべり学会

後　援

総務省消防庁

文部科学省

農林水産省

国土交通省

茨　城　県

つ　く　ば　市

協　賛

一般社団法人斜面防災対策技術協会関東支部

茨　城　県　地　質　調　査　業　協　会

協　力

一般社団法人つくば観光コンベンション協会

参加無料　事前申込必要

地すべり学会　研究発表会　検索

親子で学ぼう

真夏の防災教室 開校！

～めざせ防災博士～

平成26年 8月19日（火よう日）

集合 12：50 ➡ 16：30 終了

集合場所：防災科学技術研究所　研究交流棟　和達記念ホール
（つくば市天王台3-1）

きょうの時間割

1時限目　Dr.ナダレンジャーと科学実験！

わくわく

13：15～13：55（40分）

- 科学実験から防災の理解を深める

2時限目　藤井先生と山崩れを楽しく学ぼう！

模型実験の達人

14：00～14：40（40分）

- 模型を使い山崩れなどを直感的に理解する

3時限目　先生と一緒に遊ぼう！～自由参加形式

14：40～16：30（1時間50分）

- ナダレンジャー、藤井先生と一緒に実験・体験をする
- ミニチュア雨降り装置の見学・降雨体験　などなど

8月19日（火）日直

日本地すべり学会
防災科学技術研究所

公益社団法人日本地すべり学会
The Japan Landslide Society

独立行政法人 NIED 防災科学技術研究所

1時限目

13:15～13:55(40 分)　**会場:和達記念ホール**

科学実験から防災の理解を深める

Dr.ナダレンジャーこと

納口　恭明(のうぐち　やすあき)

独立行政法人　防災科学技術研究所

雪崩や地震は
なぜ起こる？
さまざまなアイテムを駆使して
楽しく解説します

2 時限目

14:00～14:40(40 分)　**会場:和達記念ホール**

模型を使い山崩れなどを直感的に理解する

藤井　俊逸(ふじい　しゅんいつ)

株式会社藤井基礎設計事務所

模型を使って
山崩れの仕組みを分かり
やすく説明します

3 時限目

会場:和達記念ホール他

14:40～16:30　ナダレンジャー、藤井先生と一緒に実験・体験をする

(1 時間 50 分)自由参加形式

■1 時限目、2 時限目で利用した実験装置や模型をそばで見る

■屋外に設置したミニチュア雨降り装置の見学や降雨体験をする

■その他、防災に関する実験装置を展示する(予定)

雨降り装置を使って、
降雨体験ができます

小川泰浩(おがわ　やすひろ)
独立行政法人森林総合研究所

主催者からのお願い

公共交通機関をご利用ください

駐車場が満車の場合、車両入場規制する場合があります。お車でお越しの際は、なるべくお友達と乗り合わせてお越し頂くか、公共交通機関をご利用ください。防災科学技術研究所へのアクセス ⇒ **防災科研　アクセス**　**検索**

熱中症対策をご準備ください

屋外の実験装置の体験・見学もありますので、帽子、飲み物など、熱中症対策をご準備ください。

事前申し込みが必要です

「防災教室」への参加は**事前申し込みが必要**です。参加される方の①住所、②氏名、③生年月日、④電話番号を、以下のメールアドレスに送信してください。または下記に記入の上、本用紙をファックスしてください。申し込みは先着順で受け付けします。定員に達した場合は、参加できない場合がありますので、お早目にお申し込みください。

メールは
こちらからも
送信できます

メールアドレス:kenminkouen@ml.affrc.go.jp　／　ファックス番号:050ー3730ー4137

住所	〒　【電話番号】 【ファックス番号】		
フリガナ 氏名		生年月日	
フリガナ 氏名		生年月日	
フリガナ 氏名		生年月日	
フリガナ 氏名		生年月日	

お送りいただいた個人情報は、当イベント中の安全対策のみに利用します。
法令に基づく場合など、正当な理由がある場合を除き、第 3 者に開示提供いたしません。

お問い合わせ先
■（公益社団法人）日本地すべり学会　第５３回研究発表会及び現地見学会実行委員会　県民講演会担当
■（独立行政法人）防災科学技術研究所 アウトリーチ・国際研究推進センター・アウトリーチグループ

主催：（公社）日本地すべり学会　（独）防災科学技術研究所　後援：つくば市教育委員会

研究発表会

8 月 20 日（水）の日程

<table>
<tr><td rowspan="2">区分</td><td>第 1 会場</td><td>第 2 会場</td><td>第 3 会場</td><td>ポスターセッション会場</td></tr>
<tr><td>3階</td><td colspan="2">2階</td><td>1 階</td></tr>
<tr><td>9:00～</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="3">（準備）</td></tr>
<tr><td>9::30～
10:10</td><td>開会式
表彰式</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>10:20～
12:00</td><td>特別講演</td></tr>
<tr><td>12:00～
12:55</td><td colspan="4">（休憩）</td></tr>
<tr><td>12:55～</td><td colspan="3">学会編集員会よりお知らせ</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">13:00～
16:55</td><td>13:00～14:12
事例報告①(4 件)
1-1～1-4</td><td>13:00～14:12
調査計測①(4 件)
2-1～2-4</td><td rowspan="2">13:00～14:45
特別セッション(5 件)
地すべり施設の維持管理①
[地下水排除工]
3-1～3-5</td><td rowspan="4">展示</td></tr>
<tr><td>14:20～15:32
事例報告②(4 件)
1-5～1-8</td><td>14:20～15:32
調査計測 ②(4 件)
2-5～2-8</td></tr>
<tr><td>15:40～16:52
事例報告③(4 件)
1-9～1-12</td><td>15:40～16:52
調査計測③(4 件)
2-9～2-12</td><td>14:50～16:55
特別セッション(6 件)
地すべり施設の維持管理②
[アンカー工他]
3-6～3-11</td></tr>
<tr><td>～17:45</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

8 月 21 日（木）の日程

<table>
<tr><th rowspan="2">区分</th><th>第 1 会場</th><th>第 2 会場</th><th>第 3 会場</th><th>ポスターセッション会場</th></tr>
<tr><td>3階</td><td colspan="2">2階</td><td>1 階</td></tr>
<tr><td>9:25～</td><td colspan="3">学会編集員会よりお知らせ</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">9:30～
12:10</td><td>9:30～10:42
事例報告④(4 件)
1-13～1-16</td><td>9:30～10:42
地すべり機構(4 件)
2-13～2-16</td><td>9:30～10:42
特別セッション(4 件)
火山とその周辺地域における斜面災害①
3-12～3-15</td><td rowspan="3">展示</td></tr>
<tr><td>10:50～12:02
斜面安定(4 件)
1-17～1-20</td><td>10:50～12:02
地すべり機構②(4 件)
2-17～2-20</td><td>10:50～12:10
特別セッション(3 件)
火山とその周辺地域における斜面災害②
3-16～3-18</td></tr>
<tr><td>12:10～
13:10</td><td colspan="3">(休憩)</td></tr>
<tr><td>13:10～
14:15</td><td colspan="3"></td><td>ポスターセッション
コアタイム</td></tr>
<tr><td rowspan="3">14:15～
16:29</td><td>14:15～15:27
調査計測④(4 件)
1-21～1-24</td><td>14:15～15:27
地すべり機構③(4 件)
2-21～2-24</td><td>14:15～16:03
その他(6 件)
3-19～3-24</td><td rowspan="3">展示</td></tr>
<tr><td>15:35～16:29
調査計測⑤(3 件)
1-25～1-27</td><td>15:35～16:29
地すべり機構④(3 件)
2-25～2-27</td><td></td></tr>
<tr><td>～16:40</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>16:40～
17:00</td><td>閉会式
(ポスター賞表彰)</td><td></td><td></td><td rowspan="2">(撤去)</td></tr>
<tr><td>17:00～
17:45</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

●8月20日(水)　13:00～14:12　第1会場

【一般セッション:事例報告①】

座長:土志田　正二(消防庁 消防研究センター)

1-1　北海道,長流川中流域の大規模地すべり(その3)
　　両岸の地すべり活動による河岸付近の複雑な挙動
　　石丸　聡(北海道立総合研究機構 地質研究所)・渡邊　達也・田村　慎・田近　淳

1-2　熔結凝灰岩急崖の岩盤崩壊:2013年9月北海道層雲峡の例
　　田近　淳(株式会社 ドーコン)・石丸　聡・渡邊　達也・石川　勲

1-3　北海道オシンコシン地すべり地域における最近の地すべり
　　前田　寛之(札幌工科専門学校)・河野　勝宣

1-4　改良法による大規模崩壊の発生予測法―四万十帯を中心にして
　　林　拙郎(静岡大学防災総合センター)・菅沼　忠嗣

●8月20日(水)　14:20～15:32　第1会場

【一般セッション:事例報告②】

座長:荻田　茂(奥山ボーリング株式会社)

1-5　平成24年7月九州北部豪雨災害において発生した斜面崩壊の地域的差異
　　土志田　正二(消防庁 消防研究センター)

1-6　地すべり側部調査と多点温度検層の有効性
　　横山　賢治(日本エルダルト株式会社)

1-7　ボーリングコアに見られる地すべりのすべり層と移動地塊の礫形態の特徴
　　神原　規也(株式会社 エイト日本技術開発)

1-8　入谷地区における地すべり変動に関する広域水文指標の検討
　　中根　昌士(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター)・向井　啓司・中谷　洋明

●8月20日(水)　15:40～16:52　第1会場

【一般セッション:事例報告③】

座長:神原　規也(株式会社 エイト新日本技術開発)

1-9　地震動の加速度・卓越周期が地すべり変動に与える影響
　　柴崎　宣之(独立行政法人 土木研究所)・石井　靖雄・阿部　大志・片岡　正次郎

1-10　地震地すべりの安定度評価手法に関する検討
　　道畑　亮一(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター)・相楽　渉・綱木　亮介・近藤　浩一

1-11　滝坂地すべりにおける大規模地震時の地震応答解析事例
　　山下　裕之(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター)・相楽　渉・佐藤　直行・丸山　準・
　　山路　広明・青木　剛

1-12　芋川流域の地震地すべりにおける地盤状況と地下水水質の関係
　　相楽　渉(一般財団法人 砂防・地すべり技術センター)・綱木　亮介・越智　英人・肥塚　高之・
　　山邉　康晴・丸井　英明

●8月21日(木)　9:30～10:42　第1会場

【一般セッション:事例報告④】

座長:生島　潤一(日本工営株式会社)

1-13　ベトナムにおける地すべりの地形・地質的特徴
　　阿部　真郎(奥山ボーリング株式会社)・Dinh Van Tien・Do Ngoc TRUNG・藤井　登・宮城　豊彦

1-14　ホンジュラス・テグシガルパ盆地における地すべり地形危険度評価のためのAHPモデル
　　八木　浩司(山形大学)・佐藤　剛

1-15　ホンジュラス国における地すべり調査と教育:JICA-SVの活動例として
　　廣田　清治(愛媛大学防災情報研究センター)

1-16　桐生市菱町で発生した山林火災と森林焼失斜面の状況
　　若井　明彦(群馬大学)・篠崎　智至・住田　啓輔・瀧野　誉将

●8月21日(木)　10:50～12:02　第1会場

【一般セッション:斜面安定】

座長:中村　真也(琉球大学)

1-17　地すべり地形の安定化過程の表現
　　岩部　司(熊本高等専門学校)・大塚　悟

1-18　地すべりの変位速度と安全率の関連性に関する事例解析
　　石井　靖雄(独立行政法人 土木研究所)・森永 高行・倉岡　千郎・太田　敬一・綱木　亮介

1-19　軸力が偏ったアンカー工の地すべり滑動時の軸力の変化
　　太田　敬一(日本工営株式会社)

1-20　“力のスカラー和”に関する地盤工学関連学会の混沌とその原因
　　'榎田 充哉(国土防災技術株式会社)

●8月21日(木)　14:15～15:27　第1会場

【一般セッション:調査計測④】

座長:高山　陶子(アジア航測株式会社)

1-21　斜面対策の意思決定に供する斜面評価方法
　　太田　英将(有限会社 太田ジオリサーチ)・髙馬　太一・金山　幸司・熊本　清・杉山　友康

1-22　小型UAVとSfMによる斜面変動地形の三次元モデリング
　　内山　庄一郎(独立行政法人 防災科学技術研究所)・山村　充・井上　公・熊井　直也

1-23　UAV撮影画像解析結果を用いた堆砂量推定
　　山村　充(国土防災技術株式会社)・内山　庄一郎・井上　公・熊井　直也

1-24　地すべり臨界水位と最高水位時安全率
　　猿田　茂秀(日本エルダルト株式会社)・横山　賢治・土屋　智

●8月21日(木)　15:35～16:29　第1会場

【一般セッション:調査計測⑤】

座長:太田　英将(有限会社 太田ジオリサーチ)

1-25　遺跡の地盤と岩石-岩石の寿命-
　　盛合　禧夫(東北工業大学)・松村　吉康

1-26　常時微動を利用した地震誘因地すべり斜面の振動特性について
　　梅村　順(日本大学)・川邉　洋

1-27　概成した地すべりにおける地震時の斜面変動発生状況調査
　　宮本　賢人(独立行政法人 土木研究所)・阿部　大志・野田　稔久・石井　靖雄

●8月20日(水)　13:00～14:12　第2会場

【一般セッション:調査計測①】

座長:柴崎　宣之(独立行政法人 土木研究所)

2-1　融雪に着目した地すべり地の地下水流動層調査
　　桂　真也(独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター)・木村　誇・丸山　清輝・池田　慎二・秋山　一弥・畠田　和弘

2-2　対策後の大規模地すべりの地下水環境
　　奥山　武彦(山形大学)・土原　健雄・石田　聡・白旗　克志・吉本　周平

2-3　大規模地すべりブロック上部における地下水流動解析のための比抵抗モニタリング
　　中里　裕臣(独立行政法人 農研機構 農村工学研究所)・井上　敬資・樺元　淳一・小野寺　孝一・西尾　克人・山科　真一

2-4　降雨・融雪による地すべり地における地下水位の予測、地下水文特性の評価解析
　　井藤　嘉教(株式会社　興和)・相楽　渉・綱木　亮介・越智　英人・吉松　弘行・丸井　英明

●8月20日(水)　14:20～15:32　第2会場

【一般セッション:調査計測②】

座長:千葉　伸一(応用地質株式会社)

2-5　結晶片岩地すべり地での水質分析調査結果について
　　末峯　章(京都大学)・日浦　啓全・小林　昌弘

2-6　滝坂地すべりにおけるすべり面周辺の地下水水質特性
　　肥塚　高之(株式会社 興和)・山邉　康晴・丸山　準・伊藤　和弘・岡田　武・相楽　渉・丸井　英明

2-7　地すべり観測施設における積雪による影響と軽減への試み
　　高澤　忠司(株式会社 興和)・前田　光昭・塚田　光博・井藤　嘉教・山邉　康晴・丸井　英明

2-8　簡易傾斜監視装置の精度実験
　　納谷　宏(明治コンサルタント株式会社)・林田　昇・溝上　雅宏・松門　祐二・鎌野　浩之

●8月20日(水)　15:40～16:52　第2会場

【一般セッション:調査計測③】

座長:加藤　靖郎(川崎地質株式会社)

2-9　埋設型傾斜計を用いたまさ土斜面の降雨時せん断変形の観測
　　中井　真司(復建調査設計株式会社)・渡邉　聡・笹原　克夫・岩田　直樹

2-10　加速度センサを用いた地盤傾斜計による地すべり観測の適用性について
　　三輪　賢志(独立行政法人 土木研究所)・小笠原　啓介・武田　大典・阿部　大志・石井　靖雄・西條　敦志

2-11　由比地すべりにおける観測・監視体制の強化に関する取組み(3)
　　－地すべり監視におけるHDカメラの有効性について－
　　齊藤　雅志(国土防災技術株式会社)・遠藤　久巳・村野　幸宏・寺田　秀樹・土佐　信一・高島　誠

2-12　すべり面せん断試験におけるすべり面供試体の位置合わせのずれが土質強度に及ぼす影響について
　　長谷川　陽一(国土防災技術株式会社)・毛利　貴子・柴崎　達也

●8月21日(木)　9:30～10:42　第2会場

【一般セッション:地すべり機構①】

座長:井藤　嘉教(株式会社 興和)

2-13　油谷湾層群における地すべりの一例
　　加藤　靖郎(川崎地質株式会社)・橋本　健史

2-14　大規模地すべりの運動機構に関する考察
　　荻田　茂(奥山ボーリング株式会社)・相楽　渉

2-15　長野県小谷村で発生した池原地すべり変動機構
　　児玉　浩(日本工営株式会社)

2-16　人工降雨実験におけるまさ土斜面の降雨浸透と側方流量の関係
　　岩田　直樹(中電技術コンサルタント株式会社)・柳崎　剛・梶山　敦司・渡邉　聡・丸岡　雄一郎・笹原　克夫

●8月21日(木)　10:50～12:02　第2会場

【一般セッション:地すべり機構②】

座長:座長:笹原　克夫(高知大学)

2-17　Numerical modelling of water wave generated by the Gongjiafang landslide
　　XING Aiguo(上海交通大学)・Gonghui WANH・Yao JIANG

2-18　Stick-slip instabilities in sheared granular materials
　　JIANG Yao(Kyoto University)・WANG Gonghui・KAMAI Toshitaka

2-19　Mechanical characteristics of the August 6, 2012 Mihata landslide, Shimane Prefecture, Japan
　　Do Ngoc Ha(Shimane University)・Fawu Wang・Yohei Kuwada

2-20　クロアチアザグレブ市後背丘陵地における表層崩壊危険度評価
　　王　純祥(新潟大学 災害・復興科学研究所)・丸井　英明・渡部　直喜・古谷　元

●8月21日(木)　14:15～15:27　第2会場

【一般セッション:地すべり機構③】

座長:古谷　元(富山県立大学)

2-21　簡易レーザー測距儀を用いた山上クラック帯の運動像解析－高知県いの町代次の例－
　　光本　恵美(高知大学)・本間　こぎと・横山　俊治

2-22　新潟県釜塚･段子差大規模地すべり地にみられる異常高圧塩水
　　－地下水の塩分濃度と環境同位体組成からの証拠－
　　渡部　直喜(新潟大学 災害・復興科学研究所)・佐藤　壽則・田村　優樹・知野　学

2-23　新潟県釜塚･段子差大規模地すべり地における高塩分濃度地下水の湧昇課程
　　佐藤　壽則(株式会社 日さく)・小林　淳一・伊藤　健二・渡部　直喜

2-24　スメクタイトに富む粘土の残留強度の温度依存性とせん断速度との関係
　　柴崎　達也(京都大学 防災研究所)・長谷川　陽一・松浦　純生

●8月21日(木)　15:35～16:29　第2会場

【一般セッション:地すべり機構④】

座長:佐藤　壽則(株式会社　日さく)

2-25　断層粘土及び地すべり粘土の鉱物に関する研究-岩盤クリープの粘土生成過程と円形度の関係-
　　北澤　秋司(山地環境防災研究所)

2-26　中央構造線沿いの不安定斜面の抽出と評価－長野県伊那山地の調査事例－
　　下河　敏彦(株式会社 環境地質)・稲垣　秀輝

2-27　地下水位と地表面変位の同時計測に基づく斜面崩壊
　　笹原　克夫(高知大学)

●8月20日(水)　13:00～14:45　第3会場

【特別セッション:斜面対策施設の維持管理①:地下水排除工】

座長:榎田　充哉（国土防災技術株式会社)・浅野　志穂(独立行政法人 森林総合研究所)

3-1　[招待発表] 農地地すべり防止施設の機能保全について
　　野中　陽子(農林水産省 農村振興局 農村環境課)・大塚　文哉・長田　実也

3-2　滝坂地すべり集水施設の機能保全
　　田中　靖政(日本工営株式会社)・丸山　準・伊藤　和弘・岡田　武・大河原　彰・馬場　貴志

3-3　ライナープレート集水井の腐食診断フローの提案
　　岩佐　直人(日鐵住金建材株式会社)・原田　剛男・渡邉　利一・前島　好孝

3-4　水抜きボーリング工の排水流量モニタリングと維持管理への活用
　　土佐　信一(国土防災技術株式会社)・榎田　充哉・吾妻 耕一・土屋　智

3-5　変成岩地帯の地すべりにおける地下水排除工維持管理手法の一提案
　　井上　太郎(国土防災技術株式会社)・眞弓　孝之・北代　典史・山口　誠司

(討論・総括)

●8月20日(水)　14:50～16:55　第3会場

【特別セッション:斜面対策施設の維持管理②:アンカー工他】

座長:石井　靖雄（独立行政法人 土木研究所)・茂木　俊(株式会社 日さく)

3-6　アンカー荷重と温度との相関関係を利用したのり面安定性評価
　　酒井　俊典(三重大学 大学院)・阪口　和之・磯嶋　治康・常川　善弘

3-7　旧タイプアンカーの更新工事に向けたアンカーのり面の施工管理技術について
　　常川　善弘(株式会社 相愛)・酒井　俊典・高梨　俊行・田口　浩史・山下　英二

3-8　グラウンドアンカーの緊張力変動を容易に把握する技術の開発
　　斎藤　春佳(株式会社 エスイー)・小林　亮太・竹家　宏治・芥川　真一

3-9　グラウンドアンカーのたわみ式荷重判定装置の載荷試験
　　中野　亮(日特建設株式会社)・芥川　真一・宇次原　雅之・竹家　宏治

3-10　群馬県内における道路吹付法面の劣化に関する要因の検討
　　畠中　優(群馬大学 大学院)・若井　明彦・江口　喜彦・関　晴夫・宇次原　雅之・中野　亮

3-11　構造物点検における小型UAVによる低空空撮技術の活用
　　今村　大地(株式会社 栄泉測量設計)・内山　庄一郎・古庄　広幸・宮崎　智弘・江山　栄一・
　　梅田　篤

(討論・総括)

●8月21日(木)　9:30～10:42　第3会場

【特別セッション:火山とその周辺地域における斜面災害①】

座長:落合　博貴(独立行政法人 森林総合研究所)

3-12　斜面形状とテフラ層堆積の面からみた斜面変動発生
　　檜垣　大助(弘前大学)・八木　浩司

3-13　[招待発表] 伊豆大島2014年台風災害の地形地質学的背景
　　千葉　達朗(アジア航測株式会社)

3-14　平成25年10月伊豆大島土砂災害の表層崩壊の発生機構
　　稲垣　秀輝(株式会社 環境地質)

3-15　平成25年伊豆大島災害における高速土砂流発生機構
　　福岡　浩(新潟大学)・アティカーニャ・ドク・王　純祥

●8月21日(木)　10:50～12:10　第3会場

【特別セッション:火山とその周辺地域における斜面災害②】

座長:檜垣　大助(弘前大学)・佐藤　剛(帝京平成大学)

3-16　豪雨により発生した伊豆大島の土砂流動化現象について
　　王　功輝(京都大学 防災研究所)・江　耀・土井　一生・釜井　俊孝・

3-17　地震波形記録から推定される2013年10月16日の伊豆大島における
　　斜面崩壊・土砂流動の特徴・分布
　　土井　一生(京都大学 防災研究所)・釜井　俊孝・王　功輝・森田　裕一

3-18　立山カルデラの今後の推移
　　野崎　保(野崎技術士事務所)

(討論・総括)

●8月21日(木)　14:15～16:03　第3会場

【一般セッション:その他】

座長:山本　高司(川崎地質株式会社)

3-19　地すべりに対する地域防災力向上の検討　-中学校での学習会を通して-
　　桐生　朋(株式会社 興和)・檜垣　大助・浅野目　和明

3-20　砂粒子の細粒化が浸透率に及ぼす影響－メタンハイドレート貯留層における断層の評価に向けて－
　　木村　匠(独立行政法人 産業技術総合研究所　メタンハイドレート研究センター)・金子　広明・
　　伊藤　拓馬・皆川　秀紀

3-21　地すべり移動体を構成する岩石の記載用語・成因用語の提唱
　　脇坂　安彦(独立行政法人 土木研究所)

3-22　積雪荷重が地すべり地の表層地盤へおよぼす影響
　　大澤　光(京都大学大学院)・松浦　純生・岡本　隆・柴崎　達也・松四　雄騎・寺嶋　智巳

3-23　地形解析に基づく融雪地すべりの流動化危険度評価の試み
　　木村　誇(独立行政法人 土木研究所　雪崩・地すべり研究センター)・桂　真也・丸山　清輝・
　　秋山　一弥・畠田　和弘

3-24　木製治山堰堤内の石礫の侵食耐性に関する実験
　　岡田　康彦(独立行政法人 森林総合研究所)

【ポスターセッション】

P-1　ベトナムにおける地すべり早期警戒モニタリングシステムの考察
浅野　志穂(独立行政法人 森林総合研究所)・落合　博貴・永井　修・瀧本　圭介・阿部　真郎・佐々　恭二

P-2　2014年3月22日のアメリカワシントン州のOso地すべりについて
王　純祥(新潟大学 災害・復興科学研究所)・福岡　浩

P-3　岩壁・急峻斜面におけるロープアクセス技術の実用例
保杉　昌昭(株式会社 きぃすとん)・澤田　卓郎・木城　真澄・伊藤　徳光・中井　亮・中谷　登代治

P-4　岩壁・急峻斜面における図面の表現手法
澤田　卓郎(株式会社 きぃすとん)・保杉　昌昭・木城　真澄・伊藤　徳光・中井　亮・中谷　登代治

P-5　平成20年岩手・宮城内陸地震によるグラウンドアンカーの破損発生状況調査
野田　稔久(日特建設株式会社(元土木研究所交流研究員))・阿部　大志・宮本　賢人・石井　靖雄

P-6　既存地すべり地形との比較による岩手・宮城内陸地震により発生した地すべりの規模と発生部位の特徴
ハス　バートル(アジア航測株式会社)・高山　陶子・小野田　敏

P-7　伊豆大島近海地震(1978)により発生した斜面災害の広域的再現
北村　和輝(群馬大学)・今泉　文寿・佐藤　剛・林　一成・若井　明彦

P-8　地震によって火山灰被覆丘陵で発生する崩壊性地すべりの斜面地質調査による発生危険度評価
中野　英樹(独立行政法人 土木研究所 (現 ㈱エイト日本技術開発))・杉本　宏之・柴崎　宜之・樽角　晃・石井　靖雄

P-9　火山灰被覆丘陵における地震起因の斜面変動の土塊到達距離
杉本　宏之(独立行政法人 土木研究所)・柴崎　宜之・中野　英樹・樽角　晃・石井　靖雄・檜垣　大助

P-10　地震動による地すべり土塊のせん断挙動
丸山　清輝(独立行政法人 土木研究所)・桂　真也・秋山　一弥

P-11　地震地すべり発生時の強度不連続面のせん断特性
山本　拓矢(山口大学)・鈴木　素之・大谷　直毅

P-12　盛土斜面における地震動・間隙水圧応答の特徴
土井　一生(京都大学 防災研究所)・釜井　俊孝

P-13　常時微動H/Vスペクトルに基づく宅地造成斜面に作用した強震動の事後評価
～1995年兵庫県南部地震によって被災した神戸市の造成宅地を例として～
秦　吉弥(大阪大学)・駒井　尚子・常田　賢一・魚谷　真基

P-14　大規模地震による宅地造成斜面の崩壊範囲に関する事後評価とその推定式
駒井　尚子(大阪大学)・秦　吉弥・常田　賢一

P-15　Damage and non-damage simulation of a residential fill slope during the past large-scale earthquakes
Katharina NIGGEMANN(アーヘン工科大学(大阪大学))・駒井　尚子・秦　吉弥・常田　賢一

P-16　斜面変形プロセス研究への宇宙線生成核種年代測定の応用
西井　稜子(独立行政法人 土木研究所)・松四　雄騎・松崎　浩之

P-17　遷急線に着目したレーザプロファイラによる地すべり地形抽出事例
武田　大典(独立行政法人 土木研究所)・三輪　賢志・阿部　大志・小笠原　啓介・石井　靖雄

P-18　斜め写真による三次元地形モデルを用いた斜面調査手法の検討
高山　陶子(アジア航測株式会社)・池田　辰也・川崎　正文・山口　由美子・藤田　安秀

P-19　赤城山南麓の歴史地震痕跡分布とGISに基づく分析
亀山　ひろみ(群馬大学)・田畑　あすみ・若井　明彦

P-20　2011年いわき地震で発生した地すべりの分布と三次元地震応答解析
佐藤　剛(帝京平成大学)・林　一成・八木　浩司

P-21　地すべり危険度評価に用いる地形量としての山体釣鐘形状度の修正
林　一成(奥山ボーリング株式会社)・八木　浩司・佐藤　剛・今泉　文寿・檜垣　大助

P-22　白神山地地すべり地の表層土砂の侵食特性
西川　優美(奥山ボーリング株式会社)・檜垣　大助

P-23　地すべりの動態観測結果に基づく面積ひずみと変位速度の関連性
森永　高行(独立行政法人 土木研究所)・小笠原　啓介・武田　大典・三輪　賢志・石井　靖雄

P-24　新潟県沖見地すべりにおける移動量と間隙水圧の動態観測結果
秋山　一弥(独立行政法人 土木研究所 雪崩・地すべり研究センター)・丸山　清輝

P-25　部分ストレーナ孔設置を目的とした連続ステップ孔内試験による水理地質調査
石井　靖雄(独立行政法人 土木研究所)・杉本　宏之・北原　哲郎・古島　広明・榎田　充哉・才田　誠

P-26　1m深地温計測に基づく結晶片岩地すべりにおける流動地下水脈の動態
古谷　元(富山県立大学)・末峯　章・市川裕規・王　功輝

P-27　水星北半球のクレーター周縁の地すべりの体積－見かけの摩擦角関係
福岡　浩(新潟大学)・
平成25 年度京都大学ポケットゼミナール「地球型惑星の環境地圏科学」グループ

P-28　ため池堤体に腹付したベントナイト遮水シートのすべりに対する安定性の検討
伊藤　潤(山口大学)・鈴木　素之・神山　惇・河内　義文・浦部　朋子

P-29　C^{14}年代測定を用いた地すべりの発生機構考察
坂　啓惟(日本工営株式会社)・岩佐　卓実・小俣　新重郎・宮永　悟

P-30　谷状の移送域を伴う地すべり地形の特徴に関する研究
-新潟県高田平野東縁部の地すべりでの事例
畠田　和弘(日本工営株式会社)・木村　誇・桂　真也

P-31　平成25年台風26号伊豆大島土砂災害の発端となった斜面の表層崩壊の機構解析
深津　貴之(群馬大学)・若井　明彦・本明　将来・横内　啓隆・亀山　ひろみ・後藤　聡

P-32　60年間に3度の大水害を受けた京都府山城地域の記録
中島　美千代(日本工営株式会社)・西田　廣士・傍島　史宗・網野　功輔

P-33　地すべり移動体及びすべり面の破砕・変形構造に関する指標の検討
樽角　晃(独立行政法人 土木研究所(現 応用地質株式会社))・杉本　宏之・中野　英樹・柴崎　宜之・石井　靖雄

P-34　すべり面の樹脂固定コア試料作成で重要となる切断方法の選定
千葉　伸一(応用地質株式会社)・藤沢　和範・浅野目　和明・菖蒲　幸男・星野　耕一・徳江　俊一

P-35　樹脂固定標本によるすべり面付近の礫配列の観察
小笠原　啓介(独立行政法人 土木研究所)・坂野　弘太郎・杉本　宏之・石井　靖雄

P-36　斜面の表層構造観察のための土壌モノリス作成例
篠崎　智至(群馬大学)・若井　明彦・深津　貴之

●特別セッション１：斜面対策施設の維持管理

8 月 20 日 13:00～16:55 第３会場（２階）

近年、社会資本の老朽化に伴いその維持管理が大きな問題となっています。地すべり対策施設でも、集水井・水抜きボーリング工、アンカー工などで劣化にと伴う性能低下が問題となっており、健全性の診断・評価手法や対策方法などについて研究や技術開発が進められています。老朽化が進む構造物の効率的な維持管理は、今後ますます重要性を増すと予想され、地すべりや斜面防災に関わる研究者・技術者も取り組んでいくべき重要なテーマであると考えます。このような状況を踏まえ、2014 年度の日本地すべり学会茨城大会において「斜面対策施設の維持管理」をテーマとする特別セッションを開催します。

この特別セッションでは、地すべり対策工のほか、アンカー工、コンクリート吹付工、擁壁工といった斜面対策工も含め、構造物の老朽化の実態や劣化機構に関する研究成果、老朽化施設に対する調査・診断事例、補修補強など性能回復事例や、これらに関わる新技術等に関する発表をしていただき、今後の斜面対策施設の効率的な維持管理について議論を深めていただこうと考えています。多くの研究者・技術者の方々、また構造物の管理者の皆様のご参加を期待いたします。

●特別セッション２：火山とその周辺地域における斜面災害

8 月 21 日 9:30～12:10　第３会場（２階）

近年、ゲリラ豪雨と通称されるような局地的な大雨による斜面災害が発生し、今後顕在化すると予想され極端気象により増加する可能性も懸念されています。さらに、昨年 10 月には、伊豆大島の降下火山砕屑物の堆積した急傾斜地において、豪雨による表層崩壊が多発し大規模な土砂災害を引き起こしました。

火山国であるわが国に多く分布する降下火山砕屑物の堆積域での局地的な豪雨の影響を考慮すると、火山とその周辺地域における斜面災害が発生する危険性を予測し、対策を講じておくことが重要な課題であり、これらの災害に対する研究をいっそう深化させる必要性があります。このような状況を踏まえ、2014 年度の日本地すべり学会茨城大会において「火山とその周辺地域における斜面災害」をテーマとする特別セッションを開催します。

この特別セッションでは、昨年伊豆大島で発生した斜面災害に携わった研究者だけでなく、地震時を含め火山砕屑物分布地域で発生する斜面崩壊、地すべり、土石流、山体崩壊等の斜面災害の研究および対策に携わっている研究者・技術者の方々にご参加いただき、議論を深めていただくことを期待しています。

A コース「斜面崩壊実験（防災科学技術研究所）見学」

大型降雨実験施設は、豪雨を原因とする自然災害の防止・軽減を目的として昭和 49 年に運用を開始しました。自然の降雨状態を再現する降雨装置としては世界最大の規模です。防災科学技術研究所では、この大型降雨実験施設を利用して、豪雨によって発生する土砂災害や、洪水・浸水災害等について、基礎から応用研究まで広く進めてきました。特に土砂災害研究では、普段見ることのできない崩壊の瞬間を観察できるため、貴重なデータを提供してきました。

この大型降雨実験施設は、5 つの実験区画と移動降雨装置、ポンプ制御棟、貯水槽から構成されています。移動降雨装置は降雨散水面積 44 m×72 m、降雨強度 15～200 mm／hr、雨滴粒径 0.1～2.2 mm、雨滴落下高 16 m という規模・能力を有しています。この装置により、降雨強度だけでなく、雨滴の大きさや落下速度を自然の状態に近づけることが可能となります。平成 25 年度には、近年多くみられるゲリラ豪雨にも対応できるように、降雨強度及び粒径が以前よりも大きくなるように改良を行っています。

現地見学会では、この施設にて、「ゲリラ豪雨」と「実際に雨を降らせて行う斜面崩壊実験」を見学します。特に通常は公開していない崩壊実験では、実験用の計測システムや崩壊する瞬間を見学することが可能です。また、防災科研での地すべり関連研究の見学も予定しています。

なお、実際に崩壊実験を行いますので、状況によっては待ち時間が長かったり、時間内で崩壊しないこともあります。なお、実験は、防災技術科学研究所・森林総合研究所・日本地すべり学会の共同研究として行われます。

【予定コース】

つくば駅 8:50 集合～防災科学技術研究所大型降雨実験施設～つくば駅 17:00 解散

大型降雨実験施設全景

ゲリラ豪雨見学

◆実験スタッフ

斜面モニタリング研究会（関東支部）

◆崩壊実験協力企業

株式会社オサシ・テクノス
大起理化工業株式会社
明治コンサルタント株式会社
アジア航測株式会社
復建調査設計株式会社
日本工営株式会社

B コース「茨城県北ジオパークと震災復興」

茨城県北ジオパークは、2011 年に、日本ジオパークとしての公式認定を受けました。様々な地質、自然、文化的遺産により構成されており、古生代から現代まで 5 億年におよぶ日本列島の歴史に触れることが出来るジオパークです。一方で、同地域では東日本大震災では大きな被害を被っており、復興のための活動や、自然災害と地質・地形との関係を学ぶための取り組みもはじまっています。

現地見学会では、「茨城県北ジオパークと震災復興」をテーマに茨城県北ジオパークを見学します。はじめに、五浦海岸ジオサイトにおいて五浦海岸の地層や波の浸食により形成された地形について見学します。また、同ジオサイトには茨城大学五浦美術文化研究所や近代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心が晩年居を構えた六角堂があります。これらは 2011 年東北地方太平洋沖地震の際に津波被害を被りました。この被害の要因の一つである地形と津波の浸水高の違いや、同地域における近年のめざましい復興への取り組みについても見学します。

その後、日本四大鉱山のひとつである日立鉱山を有し、工業都市として発展した日立ジオサイトへ移動します。ここでは、日立鉱山の歴史や模擬坑道、鉱石標本、煙害問題への取り組みなどが展示されている日鉱記念館を見学します。さらには、日本最古である 5 億年前の地層（カンブリア紀の花崗岩）の露頭の見学をします。

【予定コース】

つくば駅 8:50 集合～五浦海岸（北茨城市）～日鉱記念館（日立市）～かみね公園頂上～つくば駅 17:00 解散

五浦海岸の地層

日鉱記念館

◆講師

天野一男氏（茨城大学）

田切美智雄氏（日立市郷土博物館）

C コース「筑波山の成り立ちと土砂災害」

筑波山は、関東平野の北東部に単独峰としてそびえ、古来から名山として知られています。筑波山山頂部には白亜紀後期の斑レイ岩類、周囲には古第三紀の花崗岩類という、日本列島の基盤をなす古い時代の地質が分布しています。加えて、新第三紀における日本列島の形成や第四紀、特に最後の氷河時代から現在に至る関東平野の形成史を示す地層が観察できるなど、筑波山を中心としたその周辺地域は、豊富で希少なジオ資源を有しています。近年では、日本百名山にも選ばれ、ジオパークとしての認定を目指して地域ぐるみで取り組みを行っいます。

現地見学会では、「筑波山の成り立ちと土砂災害」をテーマに筑波山ジオパーク候補地を見学します。はじめに、つつじヶ丘からロープウェイで筑波山山頂まで登り、山頂付近のジオサイトで筑波山を形成する斑レイ岩類を見学します。

その後、山麓に広く分布する土石流堆積物を観察します。ケーブルカーで筑波山神社まで下山し、筑波山千寺沢の砂防堰堤群を見学します。千寺沢では昭和 13 年に、集中豪雨によって山津浪（当時は土石流が一般に認知されてなかった）による災害の発生が記録されています。この災害を機に昭和 14～18 年に整備された当該渓流の砂防堰堤群は、平成 23 年に土木学会選奨土木遺産として認定されています。筑波山周辺では、昭和 22 年のカスリン台風や昭和 54 年台風 20 号豪雨でも土石流が発生しています。

最後に筑波山梅林へ移動し、斑レイ岩類の巨岩を含む土石流堆積物を観察します。ここでは、角閃石の巨晶を特徴的に含む斑レイ岩類を採取することもできます。

【予定コース】

つくば駅 8:50 集合～筑波山つつじヶ丘～筑波山山頂～筑波山神社～千寺川砂防堰堤群～筑波山梅林～つくば駅 17:00 解散

筑波山

筑波山梅林の土石流堆積物

◆講師

酒井彰氏（産業技術総合研究所地質標本館）